

表彰制度を検討

女性・若手技術者 九州協 北九州市と意見交換



建設コンサルタツ協会（建コン協）九州支部（田中清支部長）は18日、北九州市との2021年度の意見交換会を開き、写真、業務でのウェブ会議の導入やウィークリースタンスなど

の労働環境改善への取り組み強化を要望。建コン協側が継続的に要望している若手技術者・女性技術者の表彰制度について市は導入を視野に内部検討を進めていることを明らかにした。

開会あいさつで田中支部長は他の自治体に先行している業務成績表彰制度の運用に対する謝意を示した上で技術者表彰制度の検討などを要望。インフラ分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）に関して「関係書類の電子化、通常業務の打ち合わせでのウェブ会議導入などのデジタル技術をさらに活用し、発注者、受注者ともに生産性向

上を図れば」と話した。市の青木幸浩技術監理局長はデジタル市役所の実現に向け同局でも発注契約、検査などの業務のデジタル化を推進する方針を示し「皆さんと積極的に意見交換し、身近なところから生産性の向上や業務の効率化に努めていきたい」と述べた。

意見交換での市に対する個別提案は▽円滑な業務推進を行うためのウェブ会議の導入▽若手技術者・女性技術者の成績優秀表彰の導入▽ウィークリースタンスの実践とさらなる働き方改革の推進。

ウェブ会議について市はハード・ソフトの環境が整いつつあり受注者の要望があれば対応すると回答。20年度に試行を始めた設計業務のオンライン検査を21年

度は10月までに約8割で試行したと説明し、コロナ収束後も継続するとした。

市は若手技術者・女性技術者表彰制度に関して他団体の意見も聞きながら22年度以降の導入を視野に内部検討を進めていることを明らかにした。同表彰制度は建コン協九州支部が継続的に要望しているもので導入されれば九州の県・政令市では初となる。

ウィークリースタンスでは市が21年度から特記仕様書に加え、受注者側が作成する業務計画書にも記載して取り組んでいると回答。19年度実績のヒアリング結果では月曜日を依頼日にしないなどの取り組みを完全実施した割合が8割以上となっているなどと説明した。

全ての県・政令市の共通の要望と提案のうち担い手の確保・育成のための環境整備の関連では、適正な工期設定と納期の平準化に向け市が24年度の第4四半期納期の業務の割合を40%以下とする目標を設定しているとの回答。引き続き早期発注や必要に応じた繰越措置の議会承認の12月議会や9月議会での前倒し承認に努めるとした。建コン協は繰り越し措置の議会承認のさらなる前倒しを求めた。

品質の確保・向上の関連で建コン協は条件明示チェックシートとの活用と業務スケジューリング管理表による管理を要望した。市は独自の設計フロー図を活用し、それが浸透しているとの回答。建コン協は業務スケジューリング管理表について支部会員企業の受注案件での試行を今後検討するとした。